

木ちゃり庫の組み立て方

この度は、木ちゃり庫（木製駐輪場キット）をご注文いただき、誠にありがとうございます。この説明書をよくお読みいただき、正しく、安全に組み立てをしてください。

今後ともお引き立ての程、よろしくお願い申し上げます。

※組み立てにあたっては作業用手袋を着用してください

※補助作業人が必要な工程がございます



〒381-2214 長野市稲里町田牧1327-7 TEL.026(274)5485

FAX.026(274)5486

Mail info@reborn-nagano.co.jp

完成イメージ



※搬入・納品には畳2枚分程度のスペースが必要です。
※オンデュリン屋根が乗っていない状態です。

材料表

床フレーム 壁フレーム 屋根フレーム	壁板 背板	野地板	屋根
杉(長野県産) 無塗装	杉(長野県産) 無塗装	さわら(長野県産) 無塗装	波型成型アスファルト含浸シート“オンデュリ ンクラシックシート”(既製品) フランス製

BC18218(W1820mm D1820mm)部材一覧

作業手順をイメージするためにも、**必ず確認** してください。

不備・破損がないか確認してください(万が一の場合はRebornにご連絡ください)

【基本部材】

- ① 土台 90mm角 (1820mm×2本【左右側面】、1640mm×1本【後方】)
- ② 壁パネル×6枚
- ③ 屋根パネル×3枚
- ④ 筋交い(長さカット済み)×2本
- ⑤ 背板用(厚12mm) :5枚【長さカット済み】
- ⑥ 屋根オンデュリン 6枚 長さカット済

①



②



⑤



④



③



⑥



【金物類】

- ① 箱型 土台受け×2ケ
- ② 接地用 高さ調整機能付き鋼製束 × 4ケ
- ③ ビス 75mm (壁固定など)
- ④ ビス 65mm (パネル同士の固定など)
- ⑤ ビス 38mm (鋼製束セット・筋交い金物、背板など)
- ⑥ オンデュリン固定用ビス75mm 専用キャップ (余る可能性あり)
- ⑦ 筋交い金物 2個
- ⑧ フラット型筋交い金物 2個

①



②



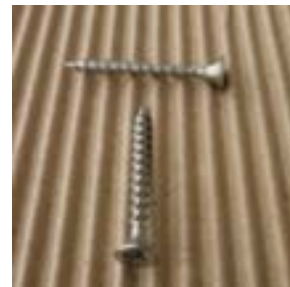
③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



お客様にご用意いただくもの

<必ずご用意ください>

- 作業用手袋



- インパクトドライバー(+ビット)



- モンキーレンチまたはスパナ19



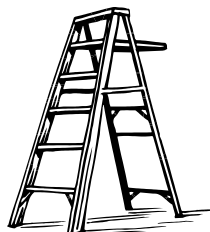
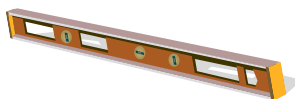
- 塗料および刷毛など塗装用具



- 設置場所が柔らかい場合、
東石、レンガやブロックなど



- 脚立 4尺以上
- 水平器



<あると便利なもの>

- 墨ツボ

- 玄能(カナヅチ)



<必要に応じてご用意ください>

雨とい(軒とい、受け金具、クサリなど)

インパクトドライバーはホームセンターなどで¥1万円程度から販売しております。プロ用は5万円程度します。モーターの性能やバッテリーのもちが異なります。



組み立て前に塗装をしましょう

梱包用段ボールを下に敷いて、部材の塗装をしましょう。

- 床パネルの裏は湿気対策のため、できるだけ塗装をしてください。耐久性・防水性がアップします。
- 物置内部は塗装をしていただいても構いませんが初期は臭いに移る可能性があります。十分に乾かしたのちに物を収納して下さい。
- 塗料は外部用のオイルステインや水性塗料がホームセンターなどで購入できます。Rebornではキシラデコールを推奨しております
- 組立後、刷毛やローラーを用いて外部木部全体を塗装して下さい。



設置か所が土など柔らかい場合は、沈み込み防止策を行います。



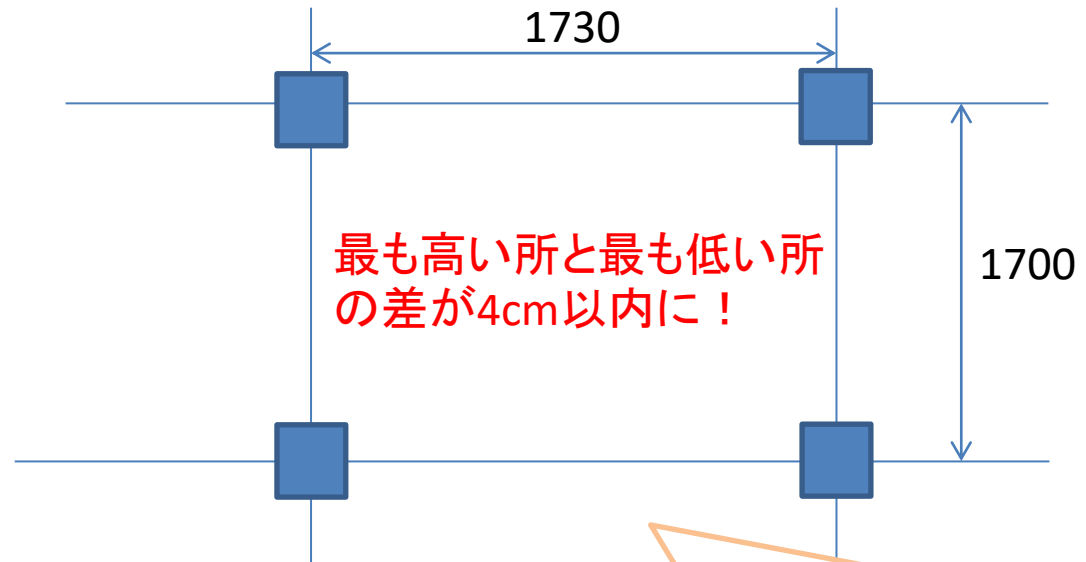
地面が柔らかい場合は、金属製の脚「レベルフット」の直下に基礎を作りましょう。ホームセンターで市販の束石ブロックやレンガ、ガーデニング用の平石などを敷くのがよいでしょう。

寒冷地など地面が凍り土が盛り上がる場合があります。どの程度の深さまで凍るかは地域によりますが、凍結深度が深い場合、一般的にその深度以下に基礎を深く作ります。しかしコストが相当かかるため、物置組立後も高さ調整ができる鋼製束にて、深い基礎は省略できることとしております。



大きなハンマー(カケヤ)であらかじめ地面をたたき、地面が沈むのを最小限にすることができると更にいいでしょう

地面に束石等を置く場合はこの寸法を参考にして下さい。単位mm



一般に、この工程で基礎上面のレベル出しに苦労するのですが、鋼製束のおかげで、おおよそで大丈夫なんです！ \(^o^)/

建物とはくっつけずに白あり被害防止や通風確保のため15～30cmは絶対に離してください

鋼製束の調整可能範囲は最大約4cmです。基礎上面はこの範囲に収まるよう、できるだけ平坦にしておきましょう。これ以上高低差がある場合は束石・ブロックの高さで調整したり、2段積みしたりして調整します。

それでは、組み立てましょう

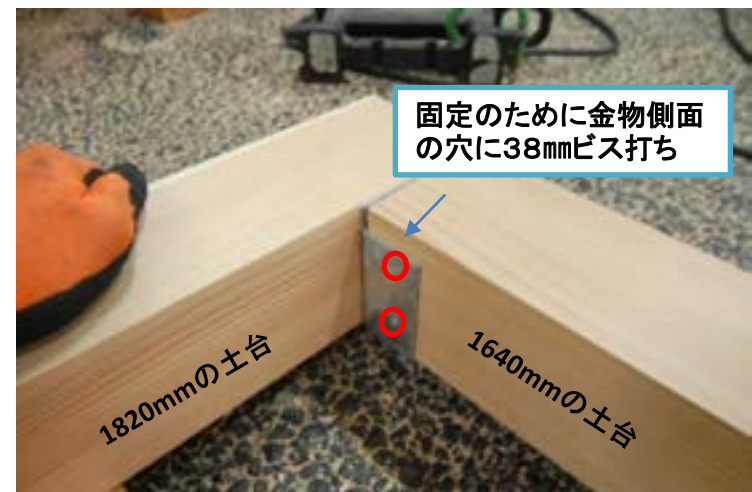
土台受け金物を計2箇所に取り付けます。



① 1820mmの床土台(2本)に大引き受け金物を38mmビスにて取り付けます。(あらかじめ仮組みしてありますので位置が分かるはず)



② 1640mmの床土台を金物の上に乗せます。
両側から38mmビスを打ちます。

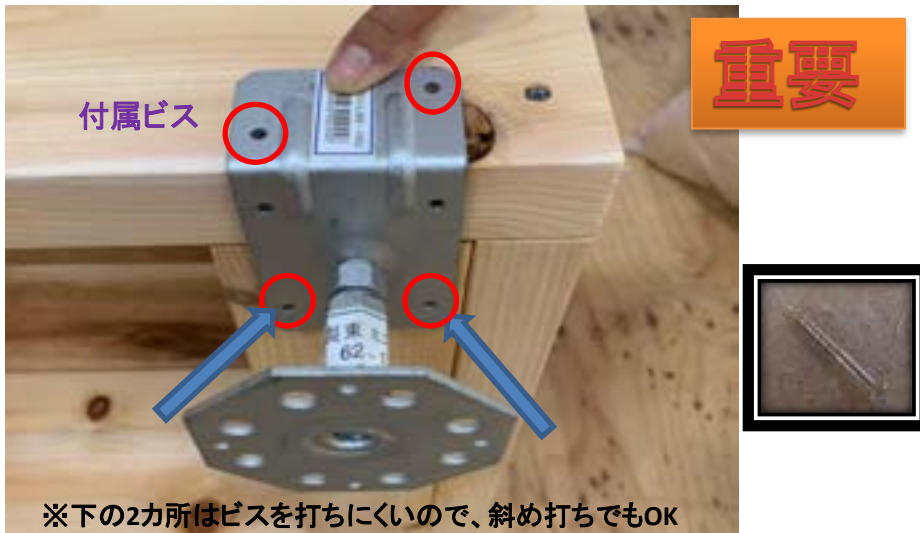


合計4か所に鋼製束を取り付けます。

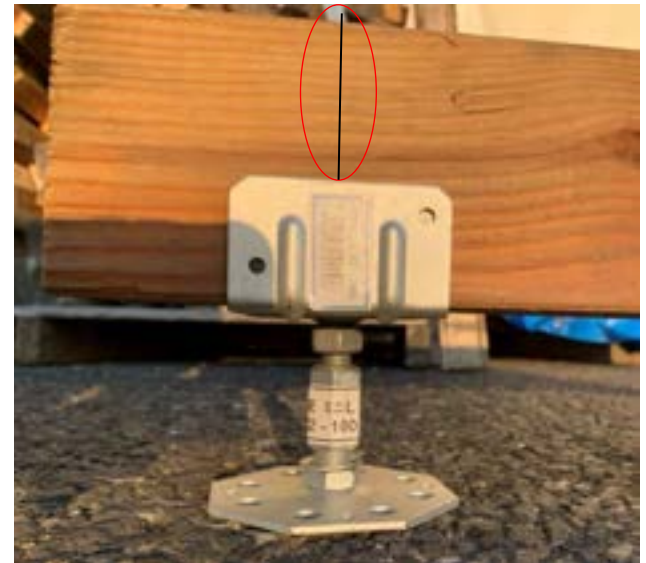
※あらかじめ仮組みしてありますので位置が分かるはずです



↓ビス穴のあいている6カ所の内、4カ所(赤丸)ねじ止めします。



↓仮組み時には外より60mmの位置で取り付けしています。
現場の状況で支障があるようでしたら、バランスが崩れない範囲で、ずらしていただいて構いません。



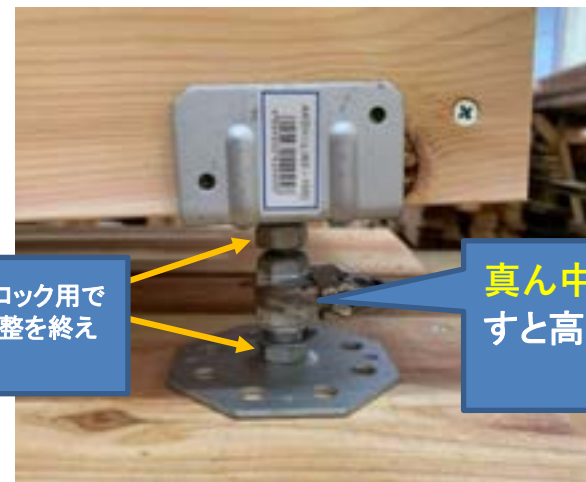
床土台のレベル調整をします（設置場所が地面の場合、鋼製束の下に平石・レンガ・ブロックなどを敷いてください。



基本的に、一番高いところを基準として、他の場所を上げてゆきます

※物置でのイメージです

水平器とモンキーレンチ(スパナ19)を用意します。設置したい場所に鋼製束を仮置きします。鋼製束の調整可能範囲は約4cmです。地面(基礎上面)はできるだけ平坦に均しておきましょう。



上と下のナットはロック用です。全体の高さ調整を終えたら回します

真ん中のナットを回すと高さが調整できます

水平器の気泡がおおむね中央に来るようにレベル調整しましょう。組み立て作業を進めるとまた狂いますので、ほどほどに・・・。

↑ こっちを上げると気泡が真ん中に



最初に、どこが最も高いのか、どこが最も低いのかを調べます

※物置でのイメージです

この気泡状態の場合、左側を上げたい

つぎに壁を立てましょう

いかがですか？ 床が平らに設置できましたか？

■ヒント

・一番高いところを基準にして、他をその高さまで上げますが、鋼製束の可動範囲を超えてしまう場合があります。

この場合、基準としていた最も高い場所の束石を、より深く地中に埋めるとよいでしょう。

・組み立て完成后、物を入れると重量で地面が沈下し、再度レベル調整が必要となります。

・鋼製束の調整可能範囲は最高4cmです。調整可能範囲を超える場合は平石(レンガ・ブロック)の厚みで調整してください。

床土台の上に壁パネルを仮置きします。(風などで倒れないよう、補助人にて支えてください)

高い壁が前方になります。また壁同士を合体させるための下穴を確認して設置場所を決定してください。



この木があるのが
上・外面です

・75mmのビスとインパクトを用意します。

風倒れ注意！！できれば補助人
にて支えてもらってください！



下穴に合わせて75mmビスにて片側3本ずつ、合計6本ビス止めします。

土台端と壁パネルの角を合わせ、インパクトドライバでビス止めします。(外側は垂直に3本、内側も同様3本。下穴加工済み) 75mmビス



【ヒント】
土台に固定する
前に、パネル同士
を先に接合させる
のもアリ^^

壁の内側の3か所もビス止めします。 75mmビス 3本
下穴があいています



※物置でのイメージです



左、右の壁パネルを立て
てます。
しっかり建ちました
か？
ビスは1~2mm程度、
少しめり込むくらいが
ちょうどいいでしょう。

壁パネル同士を65mmビスで合体させます。

上段・中段・下段と下穴があいています

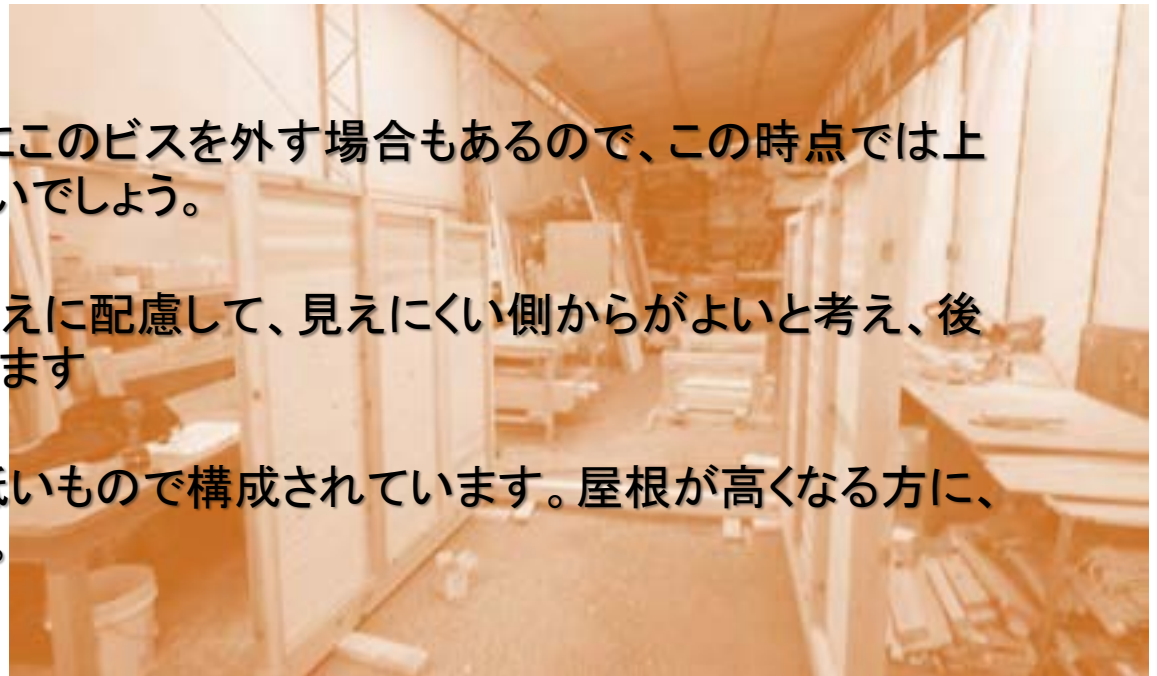


【ヒント】

- ・屋根パネルをのせる際にこのビスを外す場合もあるので、この時点では上部1本のみとしておくとい良いでしょう。

- ・ビスを打つ方向は、見栄えに配慮して、見えにくい側からがよいと考え、後方よりすべて打つようにします

- ・壁パネルは高いものと低いもので構成されています。屋根が高くなる方に、当然高い壁を配置します。



屋根パネル(計3枚)を持ち上げ、壁パネルの上部に載せます。できるだけ2人で行いましょう。



この時、屋根パネルがはまりにくい場合は、壁パネル同士をいったん離します



下穴に従って1壁パネルに対して75mmビスで片側3本で屋根を固定します。(内側は固定の必要はありません)



両サイドの外側でそれぞれの面を揃えます。



※物置のイメージです。



屋根同士を65mmビスにて引き合わせます！
(下穴空いてます。)



駐輪場の形になりましたか？？＼(^o^)／
後は、筋交いと背板です！！



筋交い(2本)を取り付けます。事前に仮組みしていますので、どの部分かあてがいながら取り付けてください。



黄色○の箇所は筋交い金物にて取り付けます。
全ての穴に38mmビスで固定します。



青色○の箇所はフラット型筋交い金物にて取り付けます。
全ての穴に38mmビスで固定します。

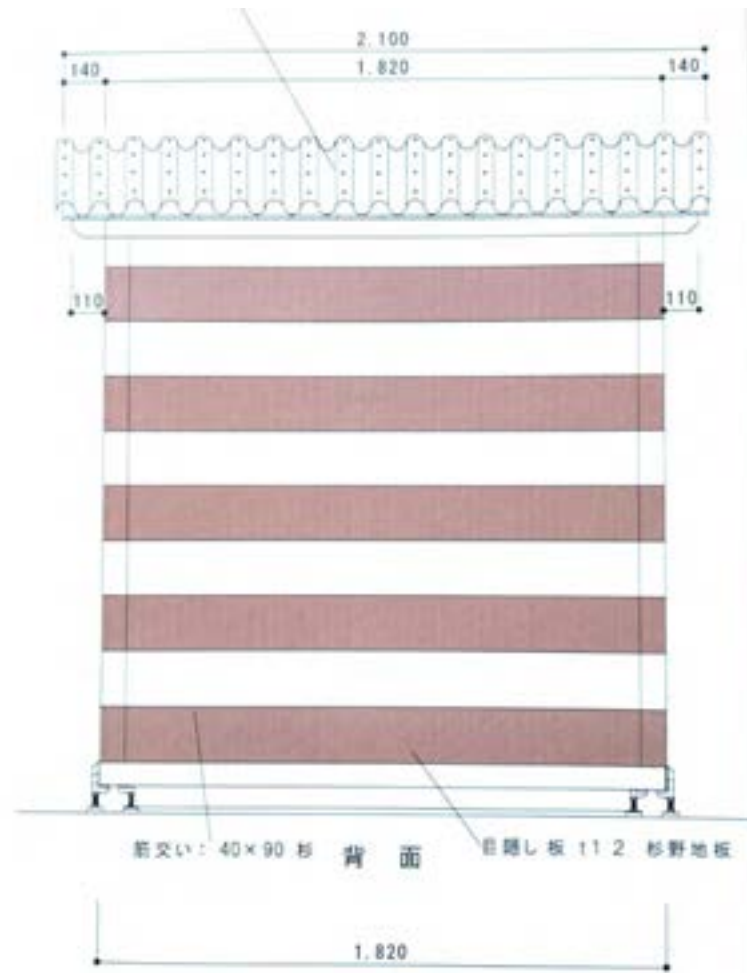


※注意※
筋交い取り付け時は、
壁・柱の垂直、土台・屋根の水平を確認しながら。

上部から背板(野地板)5枚を取り付けます。

38mmビスにて(4本/1枚)

※弊社推奨のデザインですのでオリジナルに変更していただいて構いません。



あと少しで完成です！！！！

身の回りの片付け・休憩を取ってくださいね☆

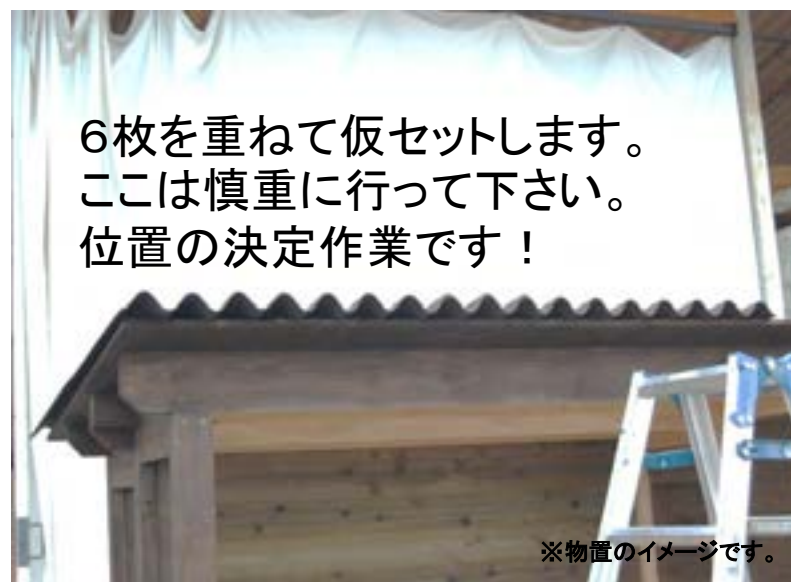
脚立を用意し、オンデュリン屋根を仮置きします。

脚立に乗った状態でラックに寄りかかると、ラックごと転倒する恐れがあります。ご注意ください。

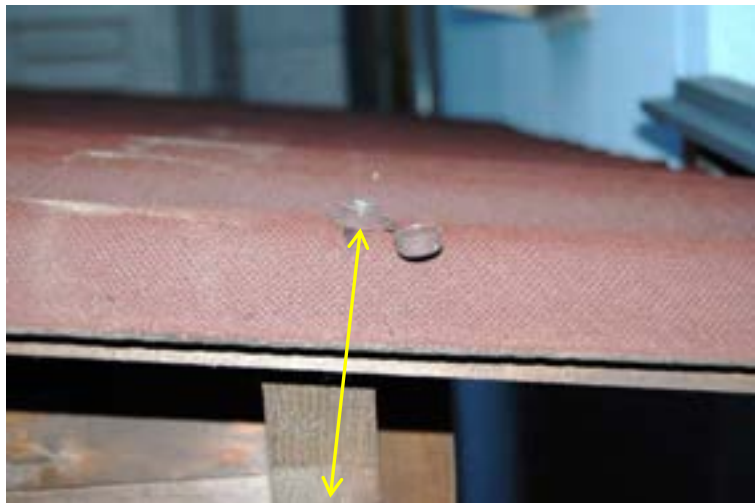


木の屋根材より、前後3cm程度出る状態でカット済です。前後が均等になるように置いてください。

6枚を重ねて仮セットします。
ここは慎重に行ってください。
位置の決定作業です！



屋根上に登る前に、あらかじめ75ビスに専用キャップを通しておきます。お手数かけます！



脚立に乗り、屋根パネルの桁に対して両端をキャップ付きビスで固定します。両サイドで合計4か所



失敗するとこのように下にはみ出ます(T_T)



この状態で屋根の上に乗ることができます。そお〜つとね(^J^)



端と端のビス打ちヶ所を糸で結びましょう。墨壺が便利です。チョーク式なら墨が打てます！
墨壺が無い場合は、2mほどの糸を用意して下さい。



全ての山にビスを打つのが原則です。



注意

ビス頭に**キャップ**をする前に、一度屋根から降りて、裏を覗きましょう。
ビス先端がはみ出ている箇所がありませんか？
できれば地上にいる補助人にはみ出ていないか確認してもらいながら、ビス打ちを行いましょう！

その後、キャップをハメます。親指でぐいっと押せばカチっとはまりますが、量が多いので大変です。カナヅチを上手に使ってトントンするのがいいと思います。



外すことも
できます

1山とばしでも固定上問題ありませんが、積雪のある地域や風の強い場所の場合は全ての山にビス打ちしましょう。

オンデュリン屋根はメンテナンスフリーです

最後に真ん中ナットで再度レベル調整をして、鋼製束の上側と下側のナットを真ん中のナットに向かってしっかり締めてください。



このナットを
下方向に回し、
締め込んでく
ださい。



このナットを
上方向に回し、
締め込んでく
ださい。

■ご注意

・必要に応じて**転倒防止となる**控えを取ってください。

・必要に応じて雨といを設置してください。

・**設置状況に応じて必要な補強をしてください。**
(強風や地震などにより転倒・倒壊しないような措置を施してください。)

自然災害により破損してしまった場合は一切の責任を負いかねます。(対物含む)必要に応じて転倒防止策を施してください。

※ビスの増し打ちも有効です

・屋根面への積雪が50cmを超える場合、雪おろしを行ってください。

・本製品は天然木を使用しており、その性質上割れや反り、乾燥による収縮などが発生いたします。あらかじめご了承ください。

・横殴りの降雨時、壁パネル下端部より床隅部に浸水が若干ある場合があります。

・定期的に防腐塗装を施してください。(1~2年毎)

組み立て完了(^_^)/~